

通常の学級における包摂力のある好事例様式

【キーワード】	スクールワイド・ソーシャルスキル・トレーニング(以下 SSST)、 学校全体での取組、小中学校連携
【学校、学年】	小学校、中学校 【小中学校連携した取組】
【状況、様子 等】	<p>○実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、職場体験学習での挨拶や人との関わり、校内での友人同士の関わり方等の社会性について、細やかな指導の必要性を感じていた。 ・熊本県学力・学習状況調査 i-check では全体的に自己肯定感が低く、相談できる相手も少ないという結果が見られた。 <p>○経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校:通級による指導の時間に取り組んだことを通常の学級や学校生活の中で生かされており、中学校にも引き継いでいた。 ・中学校:小学校で通級による指導を受けていた生徒の受け皿として、放課後に希望者を募り、特別支援教育コーディネーターが指導を始めた。 ・中学校:支援を要する生徒が学びを実践する場を設けることと、全生徒の社会性の向上を目的とし、学校全体でソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいくこととした。
【対応・工夫】 支援、 合理的配慮、 基礎的環境整備、 学級経営、 支援体制 等	<p>○支援体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、特別支援教育コーディネーターが中心になり、生徒指導部や人権教育担当と内容や方法、時期等を計画され、全校集会や学年集会等でソーシャルスキルトレーニングの活動を実践した。 ・小中学校では定期的な合同職員研修会で、特別支援教育について情報共有した。(国立特別支援教育総合研究所のSSSTに関する事例紹介) <p>○実践:中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会:アンガーマネジメント、聴覚トレーニング ・各クラス:サイコロトーク、ボードゲーム、〇〇といえばクイズ ・全校生徒:〇〇な人ビンゴ、言葉のクイズ、あなたはどっち派?
【結果、変容 等】	<p>○中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は不安な生徒もいたが、あまり話したことがない生徒とも楽しく話すことができた。 ・友達のことについて、初めて知ることができた。自分のことも今まで話したことがないことを話すことができるようになった。 ・職場体験学習や、地域のボランティア活動でもいろいろな人と楽しく交流することができた。 <p>○小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の感情理解が苦手な児童へは、感情コントロールにつながるソーシャルスキルトレーニングの内容に取り組み、児童と一緒に考えることで、自分事として捉えられるようになった。 <p>○連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校での通級による指導での取組、中学校でのソーシャルスキルトレーニングの取組について、実践を共有することで、身に付けてほしい力を段階的・系統的に指導することにつながった。 ・課題に応じた具体的なソーシャルスキルトレーニングの計画・実践をすることで、繰り返し学ぶ機会が設定され、身に付けなければならない社会性の習得につながるよう連携を深めていく。